

保護者の皆様へ

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と今後の取組について

丹波市立市島中学校

はじめに

5月27日に実施された令和3年度全国学力・学習状況調査の結果から市島中学校の成果と課題を考察しましたのでお知らせします。この調査は、文部科学省により以下の3つの目的で平成19年から実施されております。

<調査の目的>

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の内容は、教科に関する調査（今回は国語と数学）と生活習慣や学校環境に関する質問紙調査になっています。本校においても結果を分析・考察する中で、今後の指導および学習状況の改善に役立っています。

### 教科に関する調査の結果

本校生徒の正答率を全国平均と比較すると、国語、数学とも±5ポイントの範囲内にあり、全国平均と同程度という結果でした。以下、それぞれの教科の成果と課題、および今後の取組について説明します。

#### (1) 国語

##### 成果

全国平均に比べ正答率が高かった問題は、「話し合いの話題や方向性を捉える」、「話し合いの話題や方向性を捉えて話す内容を考える」、という出題の趣旨の問題で、評価の観点としては「話す・聞く能力」に関するものでした。また、「文章に書かれているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」という趣旨の問題でも正答率は、平均を上回りました。これらの結果から、普段の国語を含むいろいろな授業や集会等での話し合い活動を通して、生徒の話すことや自分の考えを持つことへの意識が高まり、力が伸びていることが分かります。

##### 課題

正答率が低い問題は、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」という出題の趣旨の問題でした。また、観点別に分けた問題の正答率を全国平均と比較すると「読む能力」と「書く能力」にやや課題があると言えます。

## 今後の取組

無回答率の高い問題を分析した結果、自分の考えを書いて説明することを苦手としている生徒が多いと考えられます。苦手意識を払拭し、気軽に楽しんで書けるような課題をさらに工夫し、授業や定期テストの中に取り入れていきます。また、『自分の意見を持ち、説明する力』をつけるために、授業中に自分の考えをノートに記述し、ペアやグループトークで友達に説明したり、意見を深めたりする活動を継続し、力をつけていきます。

## (2) 数学

### 成果

正答率が高い3問をみると、「与えられたデータから中央値を求めることができる」、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」、「ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる」という出題の趣旨の問題でした。これらのうち2問は『資料の活用』の単元であり、今の情報社会になくはない力がついていると考えられます。

また、2018年度、2019年度（2020年度は調査中止）の調査では無回答が多く見られましたが、今回の調査では、ほぼすべての問題で無回答率が、全国や県の割合を下回りました。このことは、『自分の意見を持ち、説明する力』をつけるために授業改善を行った結果が表れていると言えます。

### 課題

正答率に課題のある3問をみると、「扇形の中心角と弧の関係を理解している」、「錯角が等しくなるための2直線の関係を理解している」、「相対度数の必要性和意味を理解している」、という出題の趣旨の問題でした。誤答原因の多くは問題文の解釈ミスや言葉の意味が十分理解できていないと考えられます。評価の観点別に分けた問題の正答率を全国平均と比較すると、「知識・理解の問題」を解く力に課題があると言えます。

## 今後の取組

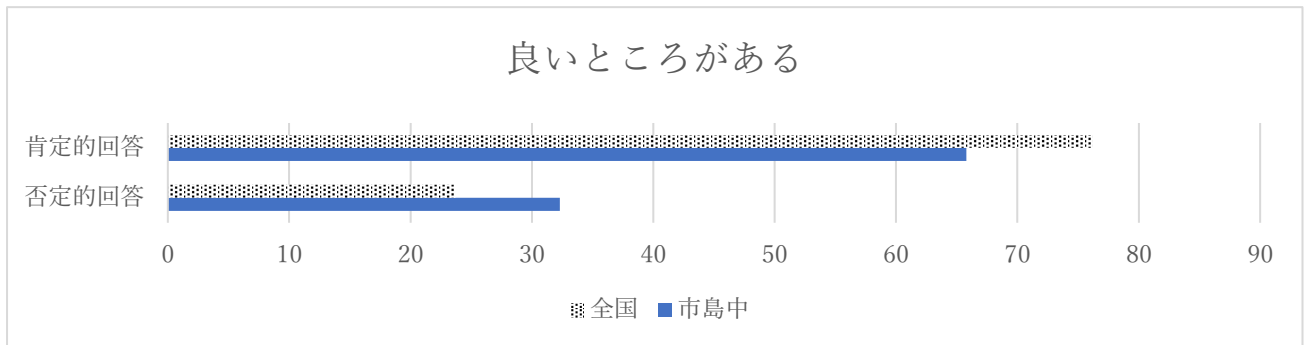
授業において、自分の考えを友達に説明したり、応用問題を友達と一緒に考えて自分の意見をノートに記述したりする時間を確保した結果、無回答率の減少が見られました。今後も継続してこの取組を進めていきます。知識の定着を図り、相互の関連性を理解するために、学習内容を実生活に結び付けたり、学習する必要性を示したりするなど、生徒が主体的に学ぶ意欲をさらに高められるように、授業改善に取り組んでいきます。

また、「知識・理解の問題」を解く力をつけるためには、既習の学習事項を継続的、効果的に復習することが必要であると考えられます。デジタル教科書を導入し、視覚支援をしながら理解を深めていきます。

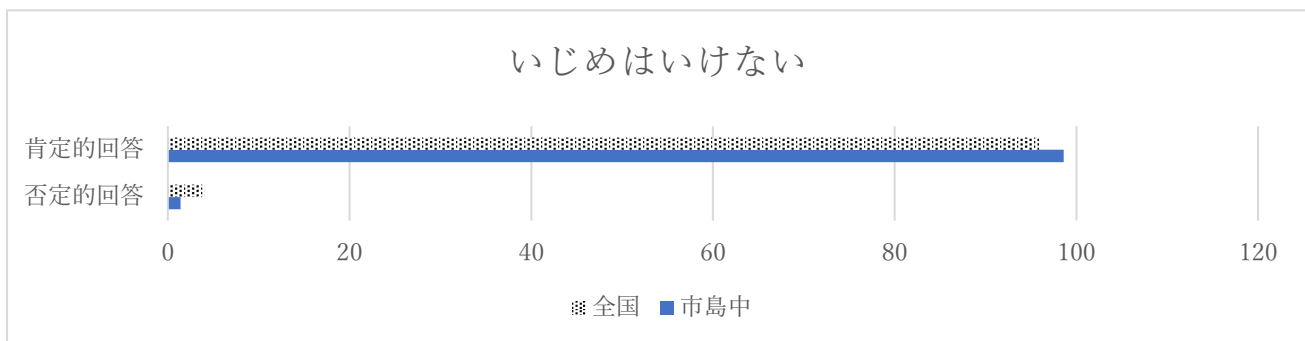
## 質問紙調査の結果

### 調査結果から見た市島中学校の状況と今後の取組

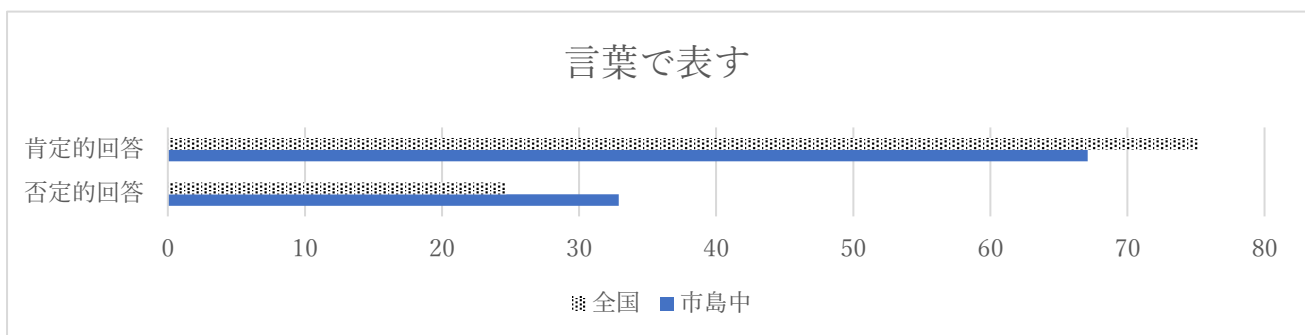
※グラフ内の数字は%



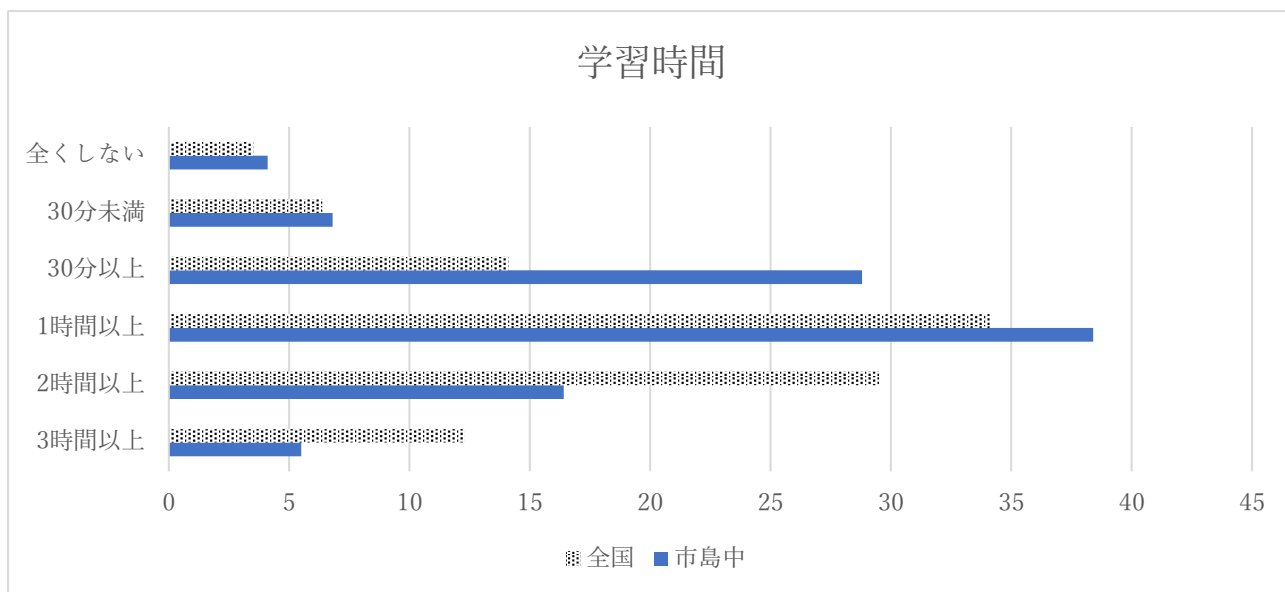
「自分には良いところがあると思いますか。」という質問に対して、肯定的回答の割合は全国平均 10 ポイントほど下回っており、自己肯定感が十分育っていない結果となっています。一人一人の成長を評価し、認めていくことで、自己有用感を高める指導を進めていきます。



「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という質問に対して、肯定的回答をした生徒の割合は、全国平均を上回っており、いじめを許さない心、思いやりの心が育っていると考えられます。今後も人権教育を基盤に、豊かな心を育てる教育を進めていきます。



「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。」という質問に対して、肯定的回答は 7 ポイントほど全国平均を下回っており、自己表現に対して苦手意識をもっていると言えます。各教科の授業において、自己表現を重視した指導を進めるとともに、集会などの教科の授業以外の場面においても、対話を通じて、自己表現する機会を積極的に取り入れていきます。



「学校の授業以外に普段一日当たりどのくらい学習しますか。」という質問に対しては、「1時間以上、2時間より少ない」という回答の割合が高いものの、「全くしない」を含めて「1時間より少ない」と回答した割合は、全国平均を15ポイント以上も上回っており、家庭学習の時間が十分でないことが表れています。キャリア教育や進路学習を進める中で、将来への夢や目標を持つことを促し、学習に対する目的意識を高めるとともに、各教科への興味・関心を高める授業づくりに努めていきます。

おわりに

全国学力・学習状況調査結果の考察をふまえて、自己表現力を育成するため、各教科の授業および特別活動の時間等において、表現する機会を大切にしていきます。また、学ぶ喜びを味わえる授業を展開し、家庭学習につながる取組を進めていきたいと思えます。子どもたちのよりよい成長のために、今後ともご理解ご協力をお願いいたします。

※ 令和3年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料については、下のQRコードからご確認ください。

